

海外研修で学んだ事

佐藤 愛海さん(13歳)

私は、3月28日から3月31日まで、台湾へ、書道の海外研修に行きました。遊びに行くのではなく、学びに行くという気持ちで胸に台湾行きの飛行機に乗りました。

空港に着くと外は暗く、時計を見ると夜の7時でした。それからバスに乗り、ホテルへ向かいました。途中、ふと顔を上げ窓を見ると「ネオンに街が飲み込まれている」と思うほど、明るく、きれいで目を奪われました。そして、建物の高さに驚きました。島の特徴で建物が高くなることは知っていましたが、予想を超える高さでした。これは、現地に行かないと分からないことだと思つたので、とても嬉しく思いました。

次の日は、台北市内の小中学生と、席書会をしました。具体的に言うと、



生徒同士が字を書き、お互いに交換するというのがです。

私は「龍之聲」と書きました。交換し終わると、プレゼントを渡し合う交流会をしました。台湾語で自己紹介をし、その後は英語で会話をしました。日本と同じで、英語がとても通じて、最後には、写真を一緒に撮ることができました。この時は、本当に楽しく、もつと話をしてみましたと思いました。

この研修を通し、いろいろなことを学んだり、興味を持つきっかけとなりました。このようなことに参加できたことを誇りに思い、経験させてくれた両親やご指導いただいた遊書道教室の中山史郎先生に感謝し、これから活かしていきたいと思えます。

研修に参加して

環心愛さん(11歳)

私が今回の研修に参加して、一番勉強になったことは、席書会での作品交換です。席書会では、二人の台湾小中学生と交流しました。私は「日本の桜」と書き、二人の友だちは「鳥語花香」と、私が国語で勉強したことがある「春暁」を書いてくれました。いつも見なれている日本の書道と違い、ひらがなも無く、日本には無い漢字もあって、台湾らしい書道



を自分の目で見ることでできて、とてもワクワクしました。

作品交換が終わった後は、台北の小中学生が通う石碇國民小学校を案内してもらいました。この小学校の図書室には、日本でも有名な「忠犬八千公」の本や、「名探偵コナン」、「妖怪ウォッチ」などの日本の本・アニメも多かったです。

今回の研修・活動を通して、台湾の人とコミュニケーションをとるとともに、台湾の歴史や文化にふれ、日台の友好にもつなげることができました。この経験を活かし、今後の書道でも良い結果を残せるよう、日々がんばります。

交流会での思い出

菊地こころさん(11歳)

「みなさん着きましたよ」と添乗員さんが言いました。みんなはバスの中から外を見ました。すると、とても大きな校舎と大きな塀がありました。私が行った学校には、三千人以上の生徒さんが通う学校でした。校庭内に入ると、校長先生や、学

校の先生がいました。先生方に案内されて学校に入ると、生徒さんたちが歌を歌いながら歓迎してくれました。

私の名札があるところに座って相手を見ると、私と同級生の男の子でした。そして、いよいよ筆を持ち半紙に書きます。私は「明るい心」と書きました。相手は「春暁 杜甫 春眠不覺曉 処聞啼鳥夜來風雨聲 花落知多少」と書いてありました。相手の子の作品は、とっても上手で、どろきました。私と一緒に、書いていた子は教室の中でもとても優秀な人だったそうで、私も負けていたらないと思いました。

二人とも書き終わり「写真を撮ってください」と言うと、「オーケー」と言ってくれたのでうれしかったです。写真を撮り終わると、おみやげ交換をしました。そうしたら、相手が日本語で「ありがとう」と言ってくれました。私は、とってもうれしかったです。学校内も案内してくれたので楽しかったです。

これが私の交流会での思い出です。

